

AY 2026
Entrance Examination Guideline for the
Application Guide
for Professional Degree Program
School of Public Health

令和 8 (2026) 年度公共健康医学専攻
募集要項 入学試験案内

- Entrance Examination Guideline
(入学試験案内)
- Outline of the Curriculum
(授業科目概要について)
- Tips for Preparing the Application Form
(入学願書作成時の注意事項について)
- Past Exam
(過去問について)

東京大学大学院医学系研究科
Graduate School of Medicine
The University of Tokyo

東京大学大学院医学系研究科

公共健康医学専攻専門職学位課程（専門職大学院）

令和8（2026）年度入学試験案内

本専門職大学院は、国民や地域住民、患者も含めた広範な人々の健康の維持、増進、回復及び生活の質（quality of life）の改善において、指導的及び実践的役割を果たす公衆衛生分野の高度専門職業人を養成することを目的としています。

募集人員については30名（2年コース20名程度、1年コース10名程度）です。なお、試験の成績によっては、入学許可者数が募集人員に達しない場合があります。

1. 概要

急速に進行する少子高齢化、突発的な新興・再興感染症やバイオテロの発生、過労死・自殺等の増加、拡大する健康格差、医療保健システムの持続可能性の不安定化など現代的問題への対応は、わが国の公衆衛生分野の喫緊の課題になっています。

本専門職大学院では、このような公衆衛生上の課題に対応するため、人間集団の健康を対象にした分析手法を身につけ、保健医療に関わる社会制度を体系的に理解し、政策立案・マネジメント能力に優れたパブリックヘルス・マインドをもった高度専門職業人の養成を目的とした教育を行います。

カリキュラムは、疫学、生物統計学、臨床疫学、保健医療経済学、医療コミュニケーション学、精神保健学、健康社会学、健康教育学、医療倫理学、プライマリヘルスケア学、健康医療政策学、医療情報システム学、法医学・医事法学、医療安全管理学、健康危機管理学、環境健康医学、産業保健の理論と実践などから構成され、この中から必修科目及び選択科目併せて30単位以上修得することで、公衆衛生学修士（専門職）の学位を修得することができます。

2. 1年コースの実務経験について

専門職学位課程出願資格の要件を満たし、出願の時点で下記に定める実務経験を有する者

出願資格	実務経験の年数	対象となる実務経験
4年制大学卒業者	3年以上の実務経験	行政機関（保健医療関係）、健保組合等の保険者、病院・診療所等の医療機関、介護老人施設、医薬品産業、医療関連産業、その他医療関係団体（NPO・NGO）などにおける保健医療関係の実務経験
6年制大学卒業者（医・歯・獣医学・薬学）又は修士課程修了者	2年以上の実務経験（医師等の臨床研修も実務とみなす）	

注意事項

(1) 出願時において、在職期間を示す書類として、在職期間証明書を必ず提出すること。

(2) 官公庁、学校、病院、民間企業等に在職のまま入学を希望する者については、募集要項 5. (3) の入学手続時に「在職のまま大学院に入学することに支障はない」旨の勤務先の承諾書(様式随意)を必ず提出すること。

(3) 保健医療分野の実務経験については、例えば医師・歯科医師・獣医師・薬剤師・保健師の資格で、行政機関あるいは医療機関における常勤(週 3 2 時間以上)の勤務が挙げられますが、これ以外にも認められる場合があります。

実務経験が該当するかどうか事前に確認をしたい場合、

A) 履歴書(連絡先を必ず記入のこと)、B) 全ての在職機関における在職期間証明書を 6 月 6 日(金)【必着】までに、大学院担当あて提出すること。提出された書類を確認の上、出願期間前までに本人宛結果を通知します。

3. 試験科目について

試験科目	内 容	備 考
外国語	英語(3 題)	辞書・翻訳機等の持ち込み不可
専 門 科 目	① 公共健康医学基礎	健康科学及び社会医学についての基礎的な問題 (択一式 20 問)
	② 統計学一般	統計学についての基礎的な問題 (択一式 20 問)
	③ 下記の専門分野から 4 問を選択(試験場で選択) ・疫学 ・医学統計 ・予防医学 ・健康教育 ・精神保健 ・医療倫理 ・医事法 ・公衆衛生調査方法論 ・医療情報システム	いずれも論述問題。 予防医学は健康管理を含む。
	④小論文	口述試験において使用する。 知識または実務経験に基づく公衆衛生上の課題と対策について論述する。

※試験時間、試験会場については、出願後に送付される受験者心得で確認すること。

4. 入学希望者向けガイダンスについて

本専門職大学院の入学希望者向けガイダンスを以下の日程で行います。

日程：2025年5月31日（土）

場所：医学部教育研究棟14F鉄門記念講堂ならびにZoomによるハイブリッド開催予定。

詳細は下記ホームページなどを参照してください。

<https://www.m.u-tokyo.ac.jp/daigakuin/apply/appguidemain.html#5>

5. 専門実践教育訓練給付金について

本専攻は、厚生労働省より専門実践教育訓練講座に認定されているため、要件を満たす方には入学料、授業料の50%（年間上限40万円）に相当する額が支給されます。本講座の指定内容は下記のとおりです。

教育訓練施設名：東京大学大学院医学系研究科

専門実践訓練講座名称	指定番号	指定期間
公共健康医学専攻 2年コース	1310261-2110011-3	令和6年4月1日～令和9年3月31日
公共健康医学専攻 1年コース	1310261-2510011-3	令和7年4月1日～令和10年3月31日

支給要件、講座等の詳細につきましては、下記ハローワークHPよりご確認ください。

https://www.hellowork.mhlw.go.jp/insurance/insurance_education.html

授 業 科 目 概 要 に つ い て

授業科目の名称	講義等の内容	単位数
疫学研究と実践	疫学研究方法論の基礎を講義すると同時に、実践する際の問題点とその克服について、事例研究（ケーススタディ）を通じて学ぶ。主な内容は以下の通り：疫学的思考、因果関係の立証、疾病発生の把握と信頼性の確保、疫学研究デザイン入門、バイアスと誤差的バラツキ、バイアスとくに交絡の制御、統計解析の役割、研究倫理と同意・個人情報保護、遺伝疫学、研究成果のフィードバックと予防保健など。	2
予防保健の実践と評価	職域・地域などをフィールドとして、健診結果や疫学研究の成果を成員にフィードバックすることにより予防保健につなげる実践活動について、主に事例研究（ケーススタディ）を通じて学ぶ。主な内容は以下の通り：健康目標の設定とその評価、実施組織の構築と役割・費用分担、成員の合意形成と情報のフィードバック・コミュニケーション、プライバシーと個人情報保護、職域保健活動の事例（産業医の役割）、地域保健活動の事例（保健師の役割）など。	2
医学データの統計解析	医学研究のデザイン、統計的仮説検定と信頼区間、サンプルサイズ設計、分割表データの解析、回帰と相関、層別解析、モデルに基づく解析、生存時間解析、多変量解析諸手法などについて教え、医学データの統計解析に必要な基礎知識、ならびに応用能力を身に付けさせる。	2
医学統計学演習	「医学データの統計解析」で講義された主要な統計手法について、実例を用いて統計解析ソフトJMPで演習を行う。その後、各グループで探索的な研究仮説を検討したのち、eStat(http://www.e-stat.go.jp/)にて公開されている公的データを利用してJMPを用いた解析を実施し、解析結果の発表を行い結果の提示方法を学ぶ。	2
医学研究のデザイン	疫学・臨床試験のデザインと実際の研究運営についての講義・演習を行う。主要雑誌に掲載される論文について、特にデザインについて理解するための基礎知識を習得し、共同作業でプロトコルを策定できる能力並びに研究事務局に参画するために必要とされる能力を磨くことを目指す。主な内容は以下の通り：研究デザインの分類と特徴、プロトコルの作成、医薬品の承認審査、品質管理と品質保証、データマネジメント、論文作成とCONSORT・STROBE宣言など。	2
臨床疫学	臨床疫学研究のテーマは、日常臨床の中に潜んでいる。Clinical practice からresearch question を紡ぎ出し、研究仮説を立て、適切なデザインを構築し、利用可能なデータから意味のある分析結果を出し、臨床的に妥当な解釈を行う。これら一連のプロセスを遂行するために不可欠となる臨床疫学の理論および実践的な方法論を身につける。	2
臨床疫学・経済学演習	学生各人が、具体的な臨床的関心あるいは公衆衛生学的関心に基づき、文献検索と仮説構築を行い、研究のproposal writing（研究の背景と目的の提示、データ収集の定式化並びに分析計画、研究費の予算書作成など）ができる実践的なスキルを身につける。さらに医学英語論文の書き方の基本を学ぶ。	2
保健医療経済学	医療経済学の基礎知識を身に着けるとともに、実証的な医療経済学分析の方法論についての基本を学ぶ。さらに医療経済学の考え方に沿って、現実の医療経済政策における個別の課題について考察する力をつける。	2
医療コミュニケーション学	臨床現場における対人コミュニケーションからメディアによるコミュニケーションまで、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の領域を概観し、その基礎的な理論と実践を体系的に学習する。ヘルスコミュニケーションにおける理論体系、実践的方法論、コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱うとともに、ヘルスコミュニケーションの具体的な実践例の紹介と分析も行う。	2

授業科目の名称	講義等の内容	単位数
医療コミュニケーション学演習	医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の実践に必要な演習を行うことによって、「医療コミュニケーション学」の講義で学んだ様々な理論や実践方法論に対する理解を深めるとともに、具体的な医療コミュニケーションの場（医療機関、官公庁、教育機関、研究機関、患者支援組織、マスコミ等）でこれらを生かすことができるようにすることを目的とする。	2
医療系学部出身者のための人文社会科学入門	「公衆衛生学（＝社会医学）＝人文学・社会科学×基礎・臨床医学」である。本講義の目的は、医療系学部出身者を主たる対象として、人文学・社会科学の諸学問に共通する基礎について講義を行うことにより、公衆衛生学や質的研究の方法論への理解を支援することにある。	
医療技術評価学演習	医療技術評価の基本を身に着ける。費用効果分析のための臨床アウトカム及びコスト情報の収集、QOL評価、決定樹・マルコフモデルの作成、費用対効果の算出、感度分析などの一連の医療経済評価手法を学ぶ。	1
医療経営学演習	2025年度は不開講	2
臨床医学概論	非医師の学生向け。臨床医学に関する基礎知識を身に着ける。医学用語を習得し、医学論文を読むための基礎力を養う。	1
医学研究データマネジメントとCDISC標準	本講義では、CDISC (Clinical Data Interchange Consortium) 標準についての概要を解説する。CDISC標準は、日本、米国、EUにおいて、規制当局への新薬治験データの申請のデータ標準として採用されることが決まっており、治験以外の一般の医学研究のデータ収集、データ交換、アーカイビング等のためにも世界中で幅広く活用されると予想されている。	1
がん疫学	「がんの疫学」について、専門家として必要な知識を体系的に習得する。集団レベルでのがんの予防をめざすには、その背景にあるがんの地理的分布や推移を把握した上で、予防に向けた要因の解明が必須である。具体的には、がん記述統計の必須基盤としてのがん登録手法、がんの要因を解明するための分析疫学研究、一つ一つの疫学的エビデンスを施策に結びつけるための橋渡し研究であるシステムティック・レビューやメタ・アナリシス、統合解析、エビデンスに基づくがん予防法やがん検診の考え方について、国内外の状況や事例も網羅して、系統的に学ぶ。	1
精神保健学Ⅰ	わが国と世界の精神疾患の疫学、精神健康評価の方法論、科学的根拠に基づいた精神保健の第一次、第二次、第三次予防の方法論について学ぶ。グループのメンバーとの協働およびリーダーシップのあり方についても学びつつ、課題に即した精神保健対策を立案する演習を行う。	2
精神保健学Ⅱ	精神保健の中でも重要なテーマであるトラウマティックストレス、周産期メンタルヘルス、職場のメンタルヘルスについての知識・技術を講義および討論によって習得することを目的とする。トラウマインフォームドケアや、周産期精神保健および産業精神保健における具体的な対策を公衆衛生の専門家として提案・実践・推進する能力を養成することを目指す。	2
健康教育学	本講義の前半では、健康関連行動に関するミクロならびにマクロレベルの理論を系統的に紹介し、これらの理論の背景となる人間像や社会観を批判的に読み解くとともに、それぞれの長所・限界点を議論していく。後半は地域・職場・学校などの具体的な場において展開する「健康づくり」活動についてディスカッションを通じて理解を深めるとともに、理論と実践の溝を埋める作業を促す。	2
健康社会学	医学的な視座を相対化し、健康・疾病・医療・公衆衛生が社会においていかなる意義・役割・機能を有しているのかを再検討するための素地として、社会学の諸理論のうち医学・保健に関するトピックを取り上げる。	2

授業科目の名称	講義等の内容	単位数
医療倫理学Ⅰ	公衆衛生領域の政策決定や臨床現場における倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方を教える。医療倫理学総論・歴史、インフォームドコンセント、研究倫理などを取り上げ、全体講義と少人数討論（ディベート）を行う。	2
医療倫理学Ⅱ	「医療倫理学Ⅰ」で扱った内容をさらに深く教授する。発展として公衆衛生、資源配分、臨床倫理コンサルテーション等に焦点を絞り、全体講義、少人数討論を行う。	2
社会と健康Ⅰ	教育・経済状況（貧困）・社会的孤立・住環境・就労環境・社会的ネットワークなど、健康に影響を与える社会的な要因（Social Determinants of Health: SDH）について、その理論的背景・実証研究・現時点の実証および実践上の課題について鳥瞰する。	2
社会と健康Ⅱ	「社会と健康Ⅰ」で学んだ知識をベースに、社会環境にアプローチする健康格差対策の進め方について実践的に学ぶ。既存の実践理論モデル、介入、政策の事例を紹介し、その利点、欠点を考察する。実践的介入計画につきグループワークで検討し最終発表を行ってもらう。	2
産業保健の理論と実践	産業保健について最近の動向と国際的視点についてのアップデートな情報を教授すると同時に、事例分析や演習を通じて産業保健を職場で遂行するための実践的技術の基礎を習得する。	2
保健医療人材育成学	保健・医療分野の人材育成（human resource development for health, health professional education）について、教育や学習に関連した理論に基づいて、全体講義と少人数講義を通して学ぶ。	2
プライマリヘルスケア学	プライマリヘルスケアおよびその医療的側面であるプライマリケアを取り上げ、公平性、住民中心、地域リソースとの協働、予防活動重視といった基盤的保健・医療サービス、社会保障制度について学ぶ。	2
日本の医療と地域保健	2025年度は不開講	1
健康医療政策学	疾病予防対策、医療保険制度、医療提供体制、医療評価など、種々の健康・医療に関わる制度・政策の背景並びに立案・実施、報道、社会への影響について、様々なステークホルダーの立場、関連の法令、費用負担のあり方などを外部講師の講義をもとに学習するとともに、実際の事例をとおして理解を深める。	2
医療情報システム学	2025年度は不開講	2
医療情報システム学実習	2025年度は不開講	1
法医学・医事法学	死因究明等の法医学実務がどのように行われているのか、その概要を学ぶとともに、特に公衆衛生に関連する部分として、死因究明制度、児童虐待および臨床法医学、中毒、災害対応、感染症等について、現状及びその問題点を中心に講義を行う。法医学教室や東京都監察医務院への見学も実施する予定である。	2
健康危機管理学	新興・再興感染症等のアウトブレイクや大規模災害など様々な健康危機の対応に関して、公衆衛生の専門家として知っておくべき事柄や、リスクコミュニケーション等について学習するとともに、事例を用いて健康危機管理に必要な疫学調査法の基本を習得する。	1
保健行政・健康危機管理学実習	健康危機管理や保健行政一般に関して、各種資料の収集、各種疫学指標の算出、原因に関する仮説の構築、現実的な対応策の立案及びその実施と評価、対策実施に関わる組織・態勢のマネジメントなどについて実習する。	2
環境健康医学	この授業は学生に、環境要因がどのように個人および集団レベルで人の健康に影響するかについての環境健康医学の視点を与える。学生は環境曝露要因と健康影響を評価するための基本概念と方法を理解する。授業の中で、健康と関連する具体的な環境要因（大気汚染、水質汚染、天候・気候変動）に関する研究を網羅し、議論する予定である。	2

授業科目の名称	講義等の内容	単位数
公共健康情報学	2025年度は不開講	2
公共健康情報学演習	2025年度は不開講	2
環境健康医学研究方法論	この授業は学生に、環境要因の健康への急性影響を研究する先進的な研究方法論を紹介する。授業は、過去20年の間に環境疫学の領域で広く利用され、重点的に発展してきた基本概念、研究デザインおよび時系列データを用いた統計学的回帰モデルを提供する。学生は時系列データと回帰モデルを解釈し、Rを用いたハンズオン演習からこれらの方法論を応用するスキルを得ることができる。	2
アジア諸国における比較医療制度論	2025年度は不開講	2
インターンシップ	公衆衛生の現場（公衆衛生関連の試験研究機関・シンクタンク・非営利団体等、医療機関）などに身を置いて、実務の中から、自ら取り組むべき課題を見つけ、分析を行い、対策を立案する能力を身に付ける。	2
公共健康医学特論	公共健康医学専攻の各分野や関連外部専門家から、それぞれ公共政策・活動との接点となる具体的取り組み事例や課題をテーマとして取り上げ、公共の厚生に資する健康科学のあり方と、その研究・実践上の克服すべき課題について、理解を深める。	2
課題研究	指導教員のもとで、特定の研究課題について現地調査（フィールドワーク）、資料収集、分析・統計解析、論文作成などの実践を通して、高度な問題解決能力を身に付ける。	6

入学願書作成時の注意事項について（専門職学位課程）

※ 募集要項及び入試案内をよく読んで作成すること。

	対 象 欄	記 入 例 ・ 注意事項など
願書 (表面)	志望コース	「2年コース」または「1年コース」のうち志望するコースに✓印を付けること。「1年コース」志願者で、判定結果により、1年コースでの受入れができない者については、2年コースの志願者として判定を受けることができる。これを希望する場合は右下の□に✓印を付けること。（✓印がない場合には1年コースの合格判定のみ）
	氏名	フリガナ、英字氏名も記入すること。英字氏名については、パスポートの氏名と一致させること。
	履歴	大学入学以降の履歴を記入すること（短期大学や他大学等から編入学している場合にも、履歴欄に記入すること）。 諸外国の学校教育制度により修了の者は二重枠欄「Formal education outside Japan」に記入すること。
	職歴	欄内に記入しきれない場合、欄内には「別紙参照」と記入の上、全ての履歴を記入した別紙(A4判用紙)を添付のこと。 職歴は原則「常勤」での勤務を記入すること。 *医師については、研修は、“(研修)”、非常勤医員としての勤務については、“(非常勤)”と記載すること。
	取得資格	記載されている資格を有する者は✓印を付けること。 その他には左記以外の医療系の資格を有する場合に記入すること。
願書 (裏面)	E-mail	提出書類に不備があった場合の連絡は原則 E-mail または携帯に連絡することになるので、必ず記入すること。
	連絡場所(緊急時)	「現住所」欄と同様の場合は「□ 現住所と同じ」に✓印を付けること。
	学生証・研究生証	本学の学生のみ記入すること。
日本語能力証明書 (留学生のみ)		日本語検定試験等を受験している留学生については、合格証明書のコピー提出に代えることができる。

その他

- 出願期間を過ぎた場合については、理由の如何に関わらず一切受け付けることは出来ないので、出身学校等へ証明書等の発行依頼を早めに行うこと。万一、証明書の発行が間に合わない場合には、必ず事前に医学系研究科大学院担当（E-mail: in.m@gs.mail.u-tokyo.ac.jp）へ連絡すること。
- 入学試験の試験時間については、出願後に送付される「受験者心得」により知らせるが、例年下記のとおり実施している。
 なお、変更される可能性があるので、必ず「受験者心得」で確認すること。
 ○外国語：午前9時30分～11時30分 ○公共健康医学基礎・統計学一般：午後1時～2時40分
 ○専門分野：午後3時10分～4時30分 ○小論文：午後5時～6時

医学系研究科の過去問題の購入方法について

東京大学大学院医学系研究科の大学院過去入試問題は、東京大学文学部複写センター（日本興業社）にて取り扱っています。

①店頭での購入②FAXでの購入③ネットでの購入（振込/代引きのみ）が可能です。

詳しくは以下のウェブサイトをご確認ください。

<https://www7b.biglobe.ne.jp/~printservice/>

文学部複写センター（日本興業社）について

問合せ先	Tel: 03-3814-9301 E-mail: print@create-d.info HP: https://www7b.biglobe.ne.jp/~printservice/
店舗販売時間	平日 10:00～16:00※土曜・日曜・祝日はお休みです。
アクセス MAP	https://www7b.biglobe.ne.jp/~printservice/access2.html （地下）

○医学系研究科大学院入試に関する問い合わせ先

東京大学医学系研究科大学院担当

E-mail: in.m@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

HP: <https://www.m.u-tokyo.ac.jp/daigakuin/apply/appguidemain.html>

東京大学大学院 医学系研究科 検定料払込方法

1 Webで事前申込み

画面の指示に従って必要事項を入力し、お支払いに必要な番号を取得。



<https://e-shiharai.net/>

学校一覧から、東京大学大学院(国立大学法人)を選択してください。

※番号取得後に入力ミスに気づいた場合はその番号では支払いを行わず、もう一度入力し直して、新たな番号を取得してお支払いください。支払い期限内に代金を支払わなかった入力情報は、自動的にキャンセルされます。
※カード決済完了後の修正・取消はできません。申込みを確定する前に内容をよくご確認ください。

※確定画面に表示される番号をメモしてください。



本学HPからもアクセスできます！



2 お支払い

セブン-イレブン

【払込票番号:13ケタ】

●レジにて「インターネット支払い」と店員に伝え、印刷した【払込票】を渡すか、【払込票番号】を伝えてお支払いください。

マルチコピー機は使用しません

ファミリーマート

【お客様番号:11ケタ】 【確認番号:4ケタ】

マルチコピー機へ
代金支払い
番号入力画面に進む

【お客様番号】 【確認番号】 入力

ローソン・ミニストップ

【お客様番号:11ケタ】 【確認番号:4ケタ】

Loppiへ
各種サービスメニュー
各種代金・インターネット受付
各種代金お支払い
マルチペイメントサービス
【お客様番号】 【確認番号】 入力

レジで代金を支払い、「入学検定料・選考料取扱明細書(チケット)」を受け取ってください。

ページ対応ATM

ゆうちょ、みずほ、三井住友、りそな銀行他

「税金・各種料金(ページ)」を選択
収納機関番号に【58021】と入力
【お客様番号】 【確認番号】を入力
支払方法を選択(現金またはキャッシュカード)し、検定料をお支払い

ネット専門銀行

楽天、auじぶん、PayPay銀行他

お申し込み確定画面から『ネットバンクでの支払い』をクリック
支払う銀行を選択して、インターネットバンキングにログイン
※一度、ブラウザを閉じてしまった場合は、E-支払いサイトの「E-支払い明細書」からログインしてください。その際には、11ケタのお客様番号が必要です。
払込内容を確認し、検定料をお支払い(口座引落扱い)

ページ対応ネットバンク

ゆうちょ、みずほ、三井住友、りそな銀行他

ネットバンキングにログインし、「税金・各種料金の払込(ページ)」をクリック
収納機関番号に【58021】と入力
【お客様番号】 【確認番号】を入力
画面上で金額を確認し、検定料をお支払い(口座引落扱い)



※お支払いされるカードの名義人は、受験生本人でなくても構いません。但し、「基本情報入力」画面では、必ず受験生本人の情報を入力してください。

Web申込みの際に、支払いに利用するカードを選択
↓
画面の指示に従い、支払手続を行ってください。

支払い完了後、E-支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスし、受付完了時に通知された【受付番号】と【生年月日】を入力して【照会結果】を印刷してください。 ※プリンタのある環境が必要です。

3 出 願

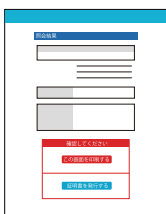
【コンビニエンスストア以外でお支払いの場合】

支払完了後、E-支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスし、受付完了時に通知された【受付番号】と【生年月日】を入力し、照会結果を印刷して出願書類に同封して出願。

<注意>

プリンタのある環境が必要です。
スマートフォンでお申込みされた方は、プリンタのある環境でご利用ください。

※当サイトにてお支払いされた場合、「取扱金融機関出納印」は不要です。



【コンビニエンスストアでお支払いの場合】

「入学検定料・選考料 取扱明細書」の「収納証明書」部分を切り取り、出願書類に同封して出願。



※当サイトにてお支払いされた場合、「取扱金融機関出納印」は不要です。

⚠ 注意事項

- 出願期間を入試要項等で確認のうえ、締切に間に合うよう十分に余裕をもってお支払いください。
- 支払最終日の「Webサイトでの申込み」は23:00まで、店頭端末機の操作は23:30までです。クレジットカードの場合、Webサイトでの申込みと同時に支払いが完了しますので、23:00までにお手続きしてください。
- 「検定料払込」についてのお問い合わせは、コンビニ店頭ではお答えできません。詳しくはWebサイトをご確認ください。
- 一度お支払いされた検定料は返金できません。
- 検定料の他に事務手数料が別途かかります。詳しくはWebサイトをご確認ください。
- カード審査が通らなかった場合は、クレジットカード会社へ直接お問い合わせください。
- 取扱コンビニ、支払方法は変更になる場合があります。変更された場合は、Webサイトにてご案内いたします。

■ お支払い期間

修士課程、専門職学位課程	令和7年6月1日(日)～6月30日(月)
博士後期課程 (国際保健学専攻[10月入学選抜])	令和7年5月19日(月)～6月18日(水)
医学博士課程	令和7年6月16日(月)～7月15日(火)
博士後期課程 (健康科学・看護学専攻[4月/10月入学選抜])	令和7年11月23日(日)～12月22日(月)
博士後期課程 (国際保健学専攻[4月入学選抜])	令和7年12月8日(月)～ 令和8年1月7日(水)